

リンゴうどんこ病に効果の高いEBI剤

福島県農業総合センター 果樹研究所
平成18~19年度農業総合センター試験成績概要
分類コード 04-01-23000000

部門名 果樹 - リンゴ - 病害虫防除
担当者 瀧田誠一郎・菅野英二

新技術の解説

1 要旨

リンゴでは開花直前、落花直後にうどんこ病、黒星病および赤星病対策にEBI剤を指導している。近年、うどんこ病に対してEBI剤を使用しても十分な防除効果が得られない事例が見られた。そこで本病に対する各種EBI剤の防除効果を比較し、効果の高い薬剤を選択する目的で試験を行った。

- (1) 福島県農業総合センター果樹研究所において、実用上問題ないと判断される防除効果を防除価60以上として比較判断した。
- (2) テトラコナゾール液剤(サルバトーレME)3,000倍、ミクロブタニル水和剤(ラリー水和剤)3,000倍、シメコナゾール水和剤(サンリット水和剤)3,000倍、ヘキサコナゾール水和剤(アンビルフロアブル)1,000倍、トリフルミゾール水和剤(トリフミン水和剤)3,000倍、ジフェノコナゾール水和剤(スコア顆粒水和剤)3,000倍、フェナリモル水和剤(ルビゲン水和剤)3,000倍がうどんこ病に対し、防除効果のある剤として選択された。特にテトラコナゾール液剤(サルバトーレME)3,000倍、ミクロブタニル水和剤(ラリー水和剤)3,000倍、シメコナゾール水和剤(サンリット水和剤)3,000倍、ヘキサコナゾール水和剤(アンビルフロアブル)1,000倍、トリフルミゾール水和剤(トリフミン水和剤)3,000倍の5剤は効果が優れていた。
- (3) オキスピコナゾールフルマル酸塩水和剤(オーシャイン水和剤)3,000倍、ビテルタノール水和剤(バイコラル水和剤)3,000倍、イミベンコナゾール水和剤(マネージDF)5,000倍は、2か年ともに効果が劣った。また、フェンブコナゾール水和剤(インダーフロアブル)1万倍は年により効果が安定せず、効果不十分と判定し、これらの薬剤を防除指針から削除した。

2 期待される効果

- (1) リンゴうどんこ病に対して防除効果の高いEBI剤を選択し使用することで、安定した防除を行うことができる。
- (2) 本試験で選抜したEBI剤はモモにも登録があるので、モモ隣接園でも使用しやすい。

3 適用範囲

県下全域

4 普及上の留意点

- (1) 耐性菌出現を防止するため、EBI剤は全てあわせて年3回以内の使用とする。
- (2) 薬剤防除の効果を上げるために、耕種的防除法(被害葉叢のせん除と適切な処分)をあわせて行う。

具体的データ等

表 リンゴうどんこ病に対する各種薬剤の防除効果(品種「紅玉」)

供試薬剤	希釈倍数	平成18年		平成19年		モモでの登録	備 考
		発病葉率(%)	防除価*	発病葉率(%)	防除価*		
テトラコナゾール液剤 (サルバトーレME)	3,000倍	5.5	81.8	1.3	95.5		
ミクロブタニル水和剤 (ラリー水和剤)	3,000倍	6.1	79.8	1.8	93.7		
シメコナゾール水和剤 (サンリット水和剤)	3,000倍	4.5	85.1	2.4	91.6		
ヘキサコナゾール水和剤 (アンビルフロアブル)	1,000倍	5.1	82.9	2.8	90.2		
トリフルミゾール水和剤 (トリフミン水和剤)	3,000倍	5.0	83.2	4.6	84.0		
ジフェノコナゾール水和剤 (スコア顆粒水和剤)	3,000倍	10.0	66.7	9.7	66.4		
フェナリモル水和剤 (ルビゲン水和剤)	3,000倍	9.2	69.5	10.3	64.2		
フェンブコナゾール水和剤 (インダーフロアブル)	1万倍	19.3	35.6	11.5	60.3	指針より削除	
オキスピコナゾールマル酸塩水和剤 (オーシャイン水和剤)	3,000倍	22.5	24.9	20.5	28.9	指針より削除	
イミペンコナゾール水和剤 (マネージDF)	5,000倍	17.9	40.3	20.7	28.5	指針より削除	
ビテルタノール水和剤 (バイコラール水和剤)	3,000倍	17.4	42.0	25.5	11.6	指針より削除	
E BI無散布		30.0		28.9			

試験場所:福島県農業総合センター果樹研究所栽培グループ「紅玉」ほ場

散布月日:平成18年は4月24日(開花直前)および5月10日(落花直後)、平成19年は4月20日(開花直前)

および5月10日(落花直後)、試験以外の薬剤散布は慣行による。

散布方法:動力噴霧機を用いて各区十分量を散布した。

調査時期:平成18年6月2日、平成19年5月30日

* :防除価 = ((E BI無散布の発病葉率) - (各区の発病葉率)) / (E BI無散布の発病葉率) × 100

その他

1 執筆者

瀧田誠一郎

2 主な参考文献・資料

なし